

授業 科目名	人体の構造 I (筋・骨・神 経系の構造) Human Anatomy (1) (muscle, bone and nervous system)	必修: 理・作 1年	1 単位 30 時間 コード:RBBB201	担当教員名: 科目責任者 <u>山本 達也</u> [ <u>脳神経内科医師</u> ] (研究室:仁戸名 9) <u>金子 徹</u> [リ ハビリテーション科医師] (研究 室:仁戸名 2)
		実務経験のある教員による授業科 目		
〔DP〕 III 実践に必要な知識 I 倫理観とプロフェッショナリズム				
〔授業の到達目標及びテーマ〕 本授業では、人体の構造に関する基礎的な知識（総論）を学んだ上で、骨・関節・筋・神経系（中枢神経・末梢神経）などの解剖学的な知識を修得できることを目標に、以下のテーマで授業を進めていく。 ①骨・関節・筋 ②中枢神経 ③末梢神経				
〔授業の概要〕 人体の構造のうち骨・関節・筋・神経系（中枢神経・末梢神経）などの構造について解剖学的な知識を修得する。本科目は、講義に加え、各種標本などを用いた演習形式により、骨、関節、筋、中枢神経、末梢神経のそれぞれの構造についての理解を深めることを目的とする。リハビリテーション科・整形外科医師、脳神経内科医師の実務経験に基づき骨、関節、筋、中枢神経、末梢神経の講義を行う。				
キーワード：骨、関節、筋、中枢神経、末梢神経				
〔授業計画〕				
回数	日付	テ ー マ	内 容	担当
第1回	4/14	解剖学総論 1	解剖学用語と人体の区分	山本 達也
第2回	4/21	骨・関節	骨・関節総論	金子 徹
第3回	4/28	骨・筋学 1	骨筋学（上肢）	金子 徹
第4回	5/12	骨・筋学 2	骨筋学（下肢）	金子 徹
第5回	5/19	解剖学総論 2	人体の構成	金子 徹
第6回	5/26	解剖学総論 3	人体の発生	金子 徹
第7回	6/2	中枢神経 1	総論、髄膜、脳室	山本 達也
第8回	6/9	中枢神経 2	大脳皮質、大脳白質	山本 達也
第9回	6/16	中枢神経 3	中枢神経の血管	山本 達也
第10回	6/23	中枢神経 4	大脳基底核、視床	山本 達也
第11回	6/30	中枢神経 5	視床下部、大脳辺縁系、小脳	山本 達也
第12回	7/7	中枢神経 6	脳幹、脊髄	山本 達也
第13回	7/14	末梢神経	末梢神経、自律神経	山本 達也
第14回	7/23	細胞の構造と機能	細胞分子生物学入門	山本 達也
第15回	7/28	まとめ	全体のまとめ	山本 達也
履修条件	特になし			
予習・復習	予習としてテキストを熟読のこと。復習にはノートの見直しを推奨。			
テキスト	野村 巖編「標準理学療法学・作業療法学 解剖学（第5版）」医学書院			
参考書・参考資料等	井上貴央監訳「カラー人体解剖学 構造と機能：ミクロからマクロまで」（西村書店） 「グレイ解剖学 原著第4版」塩田浩平 秋田恵一 監訳（ELSEVIER）			
学生に対する評価	定期試験（90%）、学習態度（10%）等により、総合的に評価する。			

授業科目名	人体の構造Ⅱ (脈管, 内臓, 感覚器の構造) (Human Anatomy II)	履修年次:	単位数:1 単位 30	担当教員名: 科目責任者 山本達也 (脳神経内科医師) (仁戸名 研究室 9)、加瀬政彦 (医 師) (A210)
		必修:理・作 1 年	時間 RBBB202 コード:	
		実務経験のある教員による授業科目		
〔DP〕Ⅲ 実践に必要な知識 I 倫理観とプロフェッショナリズム				
〔授業の到達目標及びテーマ〕 理学療法, 作業療法を学習する上で重要な人体の構造に関する知識を習得する。本科目は, 系統解剖学として, 循環器系, 内臓学 (消化器系, 呼吸器系, 泌尿器系, 生殖器系, 内分泌系等の器官), 感覚器系の基礎的な知識を中心とした構造を理解し, 説明できることを目的とする。				
〔授業の概要〕 人体について, 器官から個体までの構造を理解し, 考察できる能力を身につけることを目的にする。主に全身における内臓の構造と構成について系統的に学習し, それぞれがどのような位置関係にあるか修得する。脳神経内科医としての実務経験, 医学部における人体構造実習の経験に基づいて行う。				
キーワード: 消化器系, 呼吸器系, 泌尿器系, 生殖器系, 内分泌系, 頭蓋, 感覚器系				
〔授業計画〕				
回数	日付	テーマ	内容	担当
第1回	10/6	頭頸部 1	頭蓋骨	山本 達也
第2回	10/20	胸部 1	胸郭	加瀬 政彦
第3回	10/27	胸部 2	心臓	加瀬 政彦
第4回	11/10	胸部 3	気道, 肺	加瀬 政彦
第5回	11/17	腹部 1	腹部概要, 腹壁	山本 達也
第6回	12/1	腹部 2	胃, 十二指腸, 小腸, 大腸, 直腸, 肛門	山本 達也
第7回	12/8	腹部 3	肝臓, 胆嚢, 膵臓, 脾臓	山本 達也
第8回	12/15	骨盤と会陰 1	骨盤腔, 会陰, 膀胱	山本 達也
第9回	12/22	骨盤と会陰 2	生殖器 (男性, 女性)	山本 達也
第10回	1/5	内分泌系	下垂体, 副腎, 甲状腺	山本 達也
第11回	1/19	頭頸部 2	口腔, 咽頭, 食道, 頸部	山本 達也
第12回	1/26	頭頸部 3	脳神経 (頭蓋外の構造)	山本 達也
第13回	1/28	頭頸部 4	脳神経 (頭蓋外の構造)	山本 達也
第14回	2/2	頭頸部 5	感覚器 (眼球, 耳)	山本 達也
第15回	2/3	まとめ	全体のまとめ	山本 達也
履修条件	特になし			
予習・復習	予習はテキストに目を通し, 復習は必ず行うことを推奨する。			
テキスト	「標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学第5版」野村巖 編集 (医学書院)			
参考書・参考資料等	「カラー人体解剖学 構造と機能: ミクロからマクロまで」井上貴央 監訳 (西村書店) 「グレイ解剖学 原著第4版」塩田浩平 秋田恵一 監訳 (ELSEVIER)			
学生に対する評価	定期試験 (90%) 学習態度 (10%)			

授業科目名	人体の構造実習 Human Anatomy (practice)	履修年次：必修：理・作1年次	単位数： 1単位45時間	担当教員名：山本 達也 [脳神経内科医師]（研究室：仁戸名 9）、金子 徹 [リハビリテーション科医師]（研究室：仁戸名 2）
		実務経験のある教員による授業科目	コード：RBB202	
〔DP〕Ⅲ 実践に必要な知識				
〔授業の到達目標及びテーマ〕 人体の構造を三次元的に理解する。局所解剖としての骨・筋・神経・血管・内臓器の立体的構造を、解剖学用語を用いて説明できることを目標とする。				
〔授業の概要〕 解剖学アトラス・骨格標本のスケッチを通して人体の局所解剖を理解する。また、臨床と関連づけて骨の構造・関節運動・脳神経画像を理解する。脳神経内科医師、リハビリテーション科医師の実務経験に基づき運動器の解剖などに関する学修の支援を行う。				
キーワード：骨、筋、神経、血管、内臓器				
〔授業計画〕				
回数	日付	テーマ	内容	担当
第1,2回	10/1	頭頸部	頭部・頭蓋骨、頸部	山本 達也
第3,4回	10/8	脊柱	頸椎・胸椎・腰椎	金子 徹
第5,6回	10/15	脊髄	脊髄神経根と脊髄、神経叢	金子 徹
第7,8回	10/22	上肢1、体幹	上肢帯、肩、上腕、前腕、上肢の神経	金子 徹
第9,10回	10/29	上肢2	前腕、手、上肢の神経	金子 徹
第11,12回	11/5	下肢1	骨盤、大腿、膝、下肢の神経	金子 徹
第13,14回	11/12	下肢2	下腿、足関節、足部、下肢の神経	金子 徹
第15,16回	11/19	胸部	胸郭、肺、心臓	山本 達也
第17,18回	11/26	腹部	消化管、肝臓、腎臓	山本 達也
第19,20回	12/3	骨盤	泌尿生殖器	山本 達也
第21,22回	12/10	脳	脳画像理解の基礎	山本 達也
第23回	12/17	神経解剖	神経系の画像検査	山本 達也
履修条件	「運動学」・「機能解剖学」と関連させて学修すること。			
予習・復習	予習・復習としてテキストを熟読のこと。			
テキスト	野村 巖編「標準理学療法学・作業療法学 解剖学（第5版）」医学書院			
参考書・参考資料等	井上貴央監訳「カラー人体解剖学 構造と機能：マイクロからマクロまで」西村書店 「グレイ解剖学 原著第4版」塩田浩平 秋田恵一 監訳（ELSEVIER）			
学生に対する評価	定期試験（50%）、スッチ（40%）、学習態度（10%）により評価する。			

授業 科目名	人体の機能Ⅰ(動物性機能) (Human Physiology Ⅰ)	履修年次 必修	1 単位 15 時間	担当教員名: 笠置泰史 [医師] (非常勤講師室)
		理 1 年	コード:RBB203	
実務経験のある教員による授業科目				
〔DP〕Ⅲ 実践に必要な知識				
〔授業の到達目標及びテーマ〕				
人体の正常機能についての知識とともに、生理学的な見方と思考力を習得します				
〔授業の概要〕 まず細胞の一般的性質を概観する。さらに神経・筋などの興奮性組織の特性、その機能としての運動、感覚および自律機能、統合機能としての認知・行動について学び、それを分子的、生物学的基盤の上に基礎づけます。				
キーワード: 細胞の一般機能、シグナル伝達、膜電位、興奮伝導、シナプス伝達、シナプスの可塑性、反射、筋、興奮収縮連関、運動、協調運動、感覚、自律機能、認知、記憶、学習、統合機能				
〔授業計画〕				
回数	日付	テーマ	内 容	
第 1 回	04/14	細胞の一般機能 1	生命の分子組成・細胞膜および細胞小器官の機能	
第 2 回	04/21	細胞の一般機能 2	各論: タンパク質合成系・エネルギー代謝系・細胞骨格系・シグナル伝達系など	
第 3 回	04/28	興奮する細胞 1	静止電位・活動電位の成因	
第 4 回	05/12	興奮する細胞 2	活動電位および伝導の特性	
第 5 回	05/19	細胞間コミュニケーション 1	シナプス伝達およびシナプス統合	
第 6 回	05/26	細胞間コミュニケーション 2	シナプス後細胞の調節と、シナプスの可塑性	
第 7 回	06/02	筋の収縮 1	筋収縮の分子メカニズム・興奮収縮連関	
第 8 回	06/09	筋の収縮 2	筋収縮の物理的諸特性とその基盤	
第 9 回	06/16	運動機能とその調節 1	運動単位とその脊髄レベルでの統合	
第 10 回	06/23	運動機能とその調節 2	脳幹および小脳における運動調節	
第 11 回	06/30	運動機能とその調節 3	大脳皮質および基底核における運動調節	
第 12 回	07/07	感覚機能とその統合 1	感覚総論・化学受容(嗅覚・味覚)	
第 13 回	07/14	感覚機能とその統合 2	体性感覚	
第 14 回	07/23	感覚機能とその統合 3	特殊感覚(視覚・聴覚)	
第 15 回	07/28	統合機能	認知と統合機能 大脳連合野 行動と意識の基盤 自律神経系と大脳辺縁系	
履修条件	特になし			
予習・復習	予習はテキストを熟読。復習はノートの見直し。			
テキスト	大地陸男『生理学テキスト』第9版(2022) 文光堂			
参考書・参考資料等	「標準生理学」第9版(2019) 本間 研一 監修 (医学書院) 「ガイドン生理学(原著第13版)」John E. Hall 著 (エルゼビア・ジャパン) 「カンデル神経科学 第2版(原著第6版)」エリック R カンデル他 (MEDSi) 「記憶のしくみ 上下」エリック R カンデル他 (講談社ブルーバックス)			
学生に対する評価	筆記試験 (85% 再試において口頭試問を実施する場合あり) 授業態度 (15%)			

授業 科目名	人体の機能 II (植物性機能) (Human Physiology II)	履修年次 必修	1 単位 15 時間	担当教員名: 笠置泰史 [医師] (非常勤講師室)
		理 1 年	コード:RBB204	
		実務経験のある教員による授業科目		
[DP] III 実践に必要な知識				
[授業の到達目標及びテーマ] 人体の正常機能についての知識とともに、生理学的な見方と思考力を習得します。				
[授業の概要] 生命の基本単位である細胞が、その中で適応を維持する内部環境としての体液について概観し、その恒常性を維持する各機能系、及びそれらの調節を担う系について、その分子的、生物学的基盤をもとに学びます。				
キーワード: 植物性機能、Hb 酸素解離曲線、生体防御、体液性免疫、細胞性免疫、止血、凝固系、線維素溶解系、心筋、興奮伝導系、血圧、圧受容器反射、血管拡張物質、肺活量、一秒量、呼吸商、化学受容器反射、限外濾過、ネフロン、糸球体濾過量、アルドステロン、抗利尿ホルモン、蠕動運動、分節運動、管腔内消化、膜消化 ガストリン、インスリン、同化、異化、有酸素代謝、解糖系				
[授業計画]				
回数	日付	テーマ	内 容	
第 1 回	10/06	血液 1	血漿の機能 赤血球の機能	
第 2 回	10/20	血液 2	生体防御/免疫系 止血系	
第 3 回	10/27	心臓 1	ポンプ作用の力学的特性 心筋の特性	
第 4 回	11/10	心臓 2	興奮伝導系・心電図 心臓の調節	
第 5 回	11/17	循環系 1	循環の全身性調節 血圧 静脈還流	
第 6 回	12/01	循環系 2	循環の局所性調節 運動時の循環調節	
第 7 回	12/08	呼吸系 1	運動としての呼吸 呼吸生理学の諸指標	
第 8 回	12/15	呼吸系 2	換気の化学 呼吸調節	
第 9 回	12/22	腎機能 1	ネフロンの機能とその基盤	
第 10 回	01/05	腎機能 2	体液の量・浸透圧・組成・pH の調節	
第 11 回	01/19	消化・吸収・代謝系 1	消化管の運動・消化液の分泌・消化の調節	
第 12 回	01/26	消化・吸収・代謝系 2	同化と異化・基礎代謝量、各栄養素の代謝系と調節	
第 13 回	01/28	内分泌系 1	ホルモンとは?・ホルモンの調節系	
第 14 回	02/02	内分泌系 2	各論: 各ホルモンの分泌機序と調節	
第 15 回	02/03	生殖	性周期とそのホルモンによる調節 受精 分娩	
履修条件	特になし。			
予習・復習	予習はテキストを熟読。復習はノートの見直し。			
テキスト	大地陸男『生理学テキスト』第 9 版 (2022) 文光堂			
参考書・参考資料等	「標準生理学」第 9 版 (2019) 本間 研一 監修 (医学書院) 「ガイトン生理学 (原著第 13 版)」John E. Hall 著 (エルゼビア・ジャパン)			
学生に対する評価	筆記試験 (85% 再試において口頭試問を実施する場合あり) 授業態度 (15%)			

授業 科目名	人体の機能実習 (Physiological Practice)	履修年次: 必修 理・作2年	単位数: 1 コード: RBB300	担当教員名: 大谷拓哉[理学療法士] (仁戸名研究室11)、稲垣武[理学療法士]、坂崎純太郎[理学療法士]、有川真弓[作業療法士]、松尾真輔[作業療法士]、成田悠哉 [作業療法士]、遠藤隆志 (非常勤講師)、特別講義講師
		実務経験のある教員による授業科目		
〔DP〕 III 実践に必要な知識, VII 生涯にわたる探究心と自己研鑽				
〔授業の到達目標及びテーマ〕				
<p>① 1学年時に履修したリハビリテーション領域に必要な運動神経、感覚神経、呼吸循環の生理学の理論を理解します。</p> <p>② 実験を通して、人体の機能の再確認を行います。</p> <p>③ 実験の結果を統合する科学的思考能力の修得を進めます。</p>				
〔授業の概要〕				
<p>運動、感覚、呼吸循環といった理学療法・作業療法を学習する上で重要な人体の機能について生理学的な実習・実験を通して理解を深めます。本科目では、電気生理学的手法、運動生理学的手法等を用い、学生同士の実習を行います。実験結果はレポートにまとめながら内容の理解を促すとともに、最終回にプレゼンテーションを行い、相互の内容の共有と理解の確認を図ります。</p>				
キーワード: 電気生理学、神経生理学、運動生理学				
〔授業計画〕				
回数	日付	テーマ	内容	担当
第1回	4/15	オリエンテーション	実習内容、課題などについての説明	大谷拓哉
第2・3回	4/22	<ul style="list-style-type: none"> <li>・筋電図</li> <li>・循環機能</li> <li>・視覚機能</li> <li>・体温の測定</li> </ul>	<p>① 筋疲労など運動時の筋活動電位・変化の測定</p> <p>② 安静時の循環機能測定</p> <p>③ 視覚機能の測定 (盲斑・対光反射)</p> <p>④ 深部体温と皮膚温</p>	遠藤隆志 有川真弓 (特別講義講師) 松尾真輔 坂崎純太郎
第4・5回	5/13	〃	〃	〃
第6・7回	5/20	〃	〃	〃
第8・9回	5/27	〃	〃	〃
第10・11回	6/3	実習まとめ1	第1クールの実習のまとめを行う	大谷拓哉
第12・13回	6/10	<ul style="list-style-type: none"> <li>・誘発筋電図</li> <li>・反応時間</li> <li>・表在感覚</li> <li>・循環機能</li> </ul>	<p>① 脊髄反射回路 (H 反射など) と神経伝導速度の測定</p> <p>② 反応時間の計測</p> <p>③ 触覚、痛覚の分布、2点識別覚など</p> <p>④ 異なる条件下での循環機能</p>	遠藤隆志 稲垣武 成田悠哉 大谷拓哉
第14・15回	6/17	〃	〃	〃
第16・17回	6/24	〃	〃	〃
第18・19回	7/1	〃	〃	〃
第20・21回	7/8	実習まとめ2	実習全体のまとめ (グループワーク)	大谷拓哉
第22・23回	7/15	発表会	実習で学んだ内容の発表	全教員
履修条件	シラバスの先修条件を参照してください。			
予習・復習	予習として、人体の機能で学んだ内容を復習してください。 復習として、実習で学んだ内容をレポートにまとめてもらいます。			
テキスト	特になし			
参考書・参考資料等	指定しない。授業の中で適宜紹介する。			
学生に対する評価	レポート (60%)、発表会への取組 (20%)、学習態度 (20%) で評価します。			

授業 科目名	体表解剖学 (Body surface anatomy)	履修年次: 作1年	単位数: 1単位 15時間	担当教員名: 成田悠哉 [作業療法士] (研究室: 仁戸名研究室3)
			コード: RBB204	
		実務経験のある教員による授業科目		
〔DP〕 実践に必要な知識, I. 倫理観とプロフェッショナルリズム, II. コミュニケーション能力				
〔授業の到達目標及びテーマ〕 本授業では、「人体の構造Ⅰ」、「人体の構造実習」、および「作業運動学Ⅰ」に関する理解を深め、個々の骨・関節や筋の触診ができる知識や能力の修得を目標とする。本科目は、作業療法学、特に身体機能を扱う領域において、運動機能のはたらきが重要であることを理解する。 ①筋・骨関節の名称、部位を理解する。 ②筋・骨関節のランドマークを触診できる。				
〔授業の概要〕 作業療法を学修する上で重要な体表解剖について理解を深め、個々の骨・関節・筋の触診ができる知識や能力の修得を図る。本科目では、実際に運動する身体機能(関節や筋)を体表から確認することで、学生相互による触診技術の修得を主とする。				
キーワード: 体表解剖・人体の構造・運動学				
〔授業計画〕				
回数	日付	テーマ	内容	
第1回Ⅱ	1/7	オリエンテーション 上肢帯	触診の基本と運動方向 上肢帯の骨の触診(機能解剖学)	
第2回Ⅲ	1/7	〃	〃	
第3回Ⅱ	1/15	上肢帯	上肢帯の筋の触診(機能解剖学)	
第4回Ⅲ	1/15	〃	〃	
第5回Ⅱ	1/22	体幹・下肢	体幹・下肢の骨の触診(機能解剖学)	
第6回Ⅲ	1/22	〃	〃	
第7回Ⅱ	1/29	体幹・下肢	体幹・下肢の筋の触診(機能解剖学)	
第8回Ⅲ	1/29	まとめ	全体を通したまとめ	
履修条件	「人体の構造」(解剖学)や「作業運動学Ⅰ」を復習して講義に臨むこと。講義は実習が中心であるため、動きやすい服装(ジャージなど)かつジャージなどの下に半袖・半ズボンを着用し、参加すること(触知しやすくするため)。			
予習・復習	「人体の構造Ⅰ」、「人体の構造実習」、および「作業運動学Ⅰ」の講義内容を整理して講義に臨むこと。講義後は不十分な触診手技について再度確認のこと。			
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・動療法のための機能解剖学的触診技術 動画プラス 上肢 [Web 動画付] 改訂第2版</li> <li>・運動療法のための機能解剖学的触診技術 動画プラス 下肢・体幹 [Web 動画付] 改訂第2版</li> </ul>			
参考書・参考資料等	指定しない。授業の中で適宜紹介する。			
学生に対する評価	実技試験(70%)、日ごろの学習態度(30%)を総合的に評価する。 ※実技試験は別途案内する			

授業科目名：作業運動学Ⅰ (作業運動の基礎) Occupational Kinesiology I (Basis of Occupational Kinesiology)	履修年次 必修：作業1年	1単位 30時間 コード：RBB208	担当：成田悠哉 [作業療法士] (仁戸名研究室3)
	実務経験のある教員による授業科目		
〔DP〕Ⅲ 実践に必要な知識, Ⅰ 倫理観とプロフェッショナリズム, Ⅱ コミュニケーション能力			
〔授業の到達目標及びテーマ〕 作業療法を修得する中で重要な「ひと」の身体の動きについて学ぶ。 1. 力学の基礎と身体との関係を理解することで、「ひとの身体の動き」を説明することができる。 2. 「人体の構造」と「人体の機能」の学習から、「ひとの身体の動き」を理解する。			
〔授業の概要〕 作業療法を学修する上で重要な人体の運動について、運動学的な知識を修得する。本科目では講義に加えて学生相互の実技や体験を用いて、運動学を理解するために必要な身体運動と力学の関係、関節の構造とその動き、筋活動による身体運動について、基本的な事項を整理し、動き・運動・動作について理解する。病院で勤務経験がある作業療法士の実務経験に基づき実施する。			
〔授業計画〕 キーワード：人体の構造、人体の機能、動き、時間と空間、運動分析			
回数	テーマ	内容	
第1回(10/1)	作業療法のための運動学	オリエンテーション、「作業運動学」と「作業療法」	
第2回(10/8)	身体運動と力学①	生体力学、時間と空間の関係、身体運動と計測、など	
第3回(10/15)	身体運動と力学②	速度・加速度、円運動、筋力と重力、モーメント	
第4回(10/22)	身体運動と力学③	重心、運動の法則、てこと滑車、仕事とエネルギー	
第5回(10/29)	生体の構造と機能	人体の構造と機能(関節、筋、腱)と運動学	
第6回(11/5)	四肢と体幹の動き①	上肢帯の筋とその動き	
第7回(11/12)	四肢と体幹の動き②	肩関節の筋とその動き(1)	
第8回(11/19)	四肢と体幹の動き③	肩関節の筋とその動き(2)	
第9回(11/26)	四肢と体幹の動き④	肘関節の筋とその動き	
第10回(12/3)	四肢と体幹の動き⑤	手関節および手の筋とその動き	
第11回(12/10)	四肢と体幹の動き⑥	手のアーチと上肢機能、把持パターン	
第12回(12/17)	四肢と体幹の動き⑦	下肢帯(骨盤帯)と下肢の関節の動き(1)	
第13回(1/7)	四肢と体幹の動き⑧	下肢帯(骨盤帯)と下肢の関節の動き(2)	
第14回(1/14)	四肢と体幹の動き⑨	顔面、体幹、頸椎・胸椎・腰椎の筋と動き	
第15回(1/21)	四肢と体幹の動き⑩	まとめ	
予備日(2/4)			
履修条件	特になし		
予習・復習	予習としてテキストを熟読のこと。「人体の構造Ⅰ・Ⅱ」及び「人体の機能Ⅰ・Ⅱ」を復習しておくこと。復習には配布資料を用いることを推奨する。		
テキスト	「中村隆一：基礎運動学第6版補訂，医歯薬出版。		
参考書・参考資料等	中村隆一：運動学実習，医歯薬出版。 塩田悦人 他訳：カパンディ関節の生理学全3巻，医歯薬出版 青木隆明監修：運動療法のための機能解剖学的触診技術，MEDICAL VIEW		
学生に対する評価	定期試験(50%)，課題/小テスト(40%)，授業態度(10%)により総合的に評価する。		

※30分以上の遅刻は欠席として扱う。

※授業内に触診や実技を含むため、動きやすく、触診しやすい服装で参加すること。

授業科目名	授業科目名： 作業運動学Ⅱ（作業運動の応用） Occupational Kinesiology Ⅱ (Developments of Occupational Kinesiology)	履修年次 必修：作2年	単位数： 1単位 30時間 コード：RBB209	担当教員名：須藤崇行 (研究室：東校舎2F)
実務経験のある教員による授業科目				
〔DP〕Ⅲ 実践に必要な知識, Ⅰ 倫理観とプロフェッショナリズム				
〔授業の到達目標及びテーマ〕 作業療法における身体的運動について、基本的知識に基づき生活に必要な諸動作を理解する。 1. 筋骨格系の構造・機能と関節運動との関係を理解する。 2. 日常生活動作の基本となる姿勢保持と歩行の特徴について理解する。 3. 運動技能を獲得するうえでの運動学習の理論的枠組みを理解する。				
〔授業の概要〕 作業療法を学習する上で重要な人体の運動（動き）について、運動学的な知識を習得する。本科目では、作業運動学Ⅰの知識を基盤として、姿勢の調節、上肢運動、手の機能、歩行、運動学習などについて事項を整理し、生活に必要な諸動作への理解を図る。 キーワード：筋収縮、随意運動、上肢・下肢・頭部・体幹機能、姿勢、歩行、運動学習				
〔授業計画〕 ※内容にある『基礎運動学 第6版』のページ範囲を前もって参照しておくこと。				
回数	日付	テーマ	内 容	
第1回	4/11 2限	オリエンテーション	オリエンテーション	
第2回	4/18 2限	筋収縮のメカニズム	筋収縮の生理	
第3回	4/25 2限	神経系の機能と構造	神経系と随意運動①	
第4回	5/2 2限	神経系の機能と構造	神経系と随意運動②	
第5回	5/9 2限	上肢の運動	上肢の運動の特徴①	
第6回	5/16 2限	上肢の運動	上肢の運動の特徴②	
第7回	5/23 2限	下肢の運動	下肢の運動の特徴①	
第8回	5/30 2限	下肢の運動	下肢の運動の特徴②	
第9回	6/6 2限	頭部の運動	顔面、咀嚼、嚥下運動	
第10回	6/13 2限	脊柱・体幹の構造と機能	脊柱・体幹の運動	
第11回	6/20 2限	姿勢	姿勢とその制御	
第12回	6/27 2限	歩行	歩行の基礎知識	
第13回	7/4 2限	運動学習	運動学習理論①	
第14回	7/11 2限	運動学習	運動学習理論②	
第15回	7/18 2限	まとめ	全体を通したまとめ	
履修条件	特になし			
予習・復習	講義の都度に資料の整理に努め、内容の確認を行うこと。			
テキスト	基礎運動学 第6版 医歯薬出版			
参考書・参考資料等	指定しない。授業の中で適宜紹介する。			
学生に対する評価	定期試験(80%)、日ごろの学習態度(20%)により総合的に評価する。			

授業科目名	授業科目名： 作業運動学演習 Clinical Kinesiology	履修年次： 選択：作2年	単位数：2単位 30時間 コード：RBB210	担当教員名： 須藤崇行（作業療法士） 竹内弥彦（理学療法士） （研究室：東校舎 2F）
実務経験のある教員による授業科目				
〔DP〕 III 実践に必要な知識, II. コミュニケーション能力, I 倫理観とプロフェッショナリズム				
〔授業の到達目標及びテーマ〕				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 健常者の姿勢や基本動作パターンを観察・分析し、記述表現することができる。</li> <li>・ 骨関節疾患、中枢神経系疾患患者の基本動作における運動学的特性を理解する。</li> <li>・ 客観的データに基づき、動作に適した筋収縮、支持基底面と重心位置、身体アライメントの関係を記述表現できる。</li> </ul>				
〔授業の概要〕				
臨床や研究場面で用いられる動作分析およびデータ処理の手法について学ぶ。動作分析の基本となる身体合成重心、足圧中心、支持基底面、およびそれらの相互関係の概念を理解し、基本的動作の観察、その分析手法および記録・記述方法について、客観的データを基に学習する。さらに、運動器疾患における基本動作の運動学的特性について講義する。（本授業はオムニバス方式により行う。）				
キーワード：運動学、運動力学、動作・運動分析				
〔授業計画〕				
回数	日付	テーマ	内容	担当
第1回	4/10	講義のガイダンス	受講に関する注意事項、成績評価方法などの説明、姿勢分析の説明	須藤
第2回	4/17	姿勢分析 1	前額面からの姿勢分析 1	須藤
第3回	4/24	姿勢分析 2	前額面からの姿勢分析 2	須藤
第4回	5/1	姿勢分析 3	矢状面からの姿勢分析 1	須藤
第5回	5/8	姿勢分析 4	矢状面からの姿勢分析 2	須藤
第6回	5/15	姿勢分析 5	水平面からの姿勢分析	須藤
第7回	5/22	臨床動作分析の展開	正常動作パターンの多様性、臨床動作分析の進め方	竹内
第8回	5/29	クインフォゲルパットの運動学	運動様式による平衡反応の分類	竹内
第9回	6/5	基本動作の運動分析 1)	寝返り、起き上がり動作の分析 1)	竹内
第10回	6/12	基本動作の運動分析 2)	寝返り、起き上がり動作の分析 2)	竹内
第11回	6/19	基本動作の運動分析 3)	3次元動作解析装置データによる立ち上がり動作の分析 1)	竹内
第12回	6/26	基本動作の運動分析 4)	3次元動作解析装置データによる立ち上がり動作の分析 2)	竹内
第13回	7/3	歩行	歩行周期と各相の機能的役割	竹内
第14回	7/10	運動器疾患の動作分析	変形性関節症患者の動作分析	竹内
第15回	7/17	総括	科目全体に関する総括、質疑応答	須藤
履修条件	特になし			
予習・復習	予習として運動学関連科目の該当箇所を確認する。			
テキスト	授業時の適宜配布資料			
参考書・参考資料等	基礎バイオメカニクス」 医歯薬出版 「動作分析 臨床活用講座」メディカルビュー			
学生に対する評価	定期試験（40%）、課題（40%）、授業時の学習態度（20%）により総合的に評価する。			